

能登地震1年

石川・七尾市

川本志都子

能登地震から1年。わが家は「半壊」の判定を受け、少しずつではあります、直しながら生活しています。

母のこと

兵庫・三田市

田中幸子(64)

山口に住む94歳の母

いち日にひとつ笑えばよしとする
三重・御浜町 東尾栄子(76)
軍拡へ過半数割れどこ吹く風
京都・向日市 ひでこ



兵庫・明石市 田岡いく代(75)

風が入り込み、暖房をしても寒い。国はもっと支援をしてほしいです。安心して暮らせる国であってほしい。

読者がつくるページ

は、私が子どものころから新婦人を大切にしてきました。2年前に骨折し、今は車いす生活になりました。施設で毎日、デイサービスを楽しんでいます。 「青春を戦争で奪われた」と戦争反対を訴え続け、「女性も男性と同じ」と、結婚して公務員の仕事を続け、定年後も新婦人を生きがいにしてきた母です。認知症とはいえず、心の奥は、若いころと変わっていないと、母を見て思います。 まだまだ元気でいてほしいです。

雪のふるさと

岐阜・大垣市 杉原幸子(84)

私の故郷は新潟県柏崎市で、小学4年〜中学卒業まで過ごしました。冬は雪のニュースが気がかりです。私が過ごしたころは、4〜5センチの大雪で

テーマ

冬に行きたいあの場所

つといた坂道での手づくりの竹スキーはなつかしい思い出です。15歳で就職のとき、汽車の窓から見た日本海、雪の故郷に行きたいです。 番目に行きたいところは千葉の勝浦です。 漁村で、新鮮な魚がおいしく、町の人も親切で、住みやすいので移住する人がたくさんいます。 夏は涼しく、冬は暖かく、くらしやすいですよ。

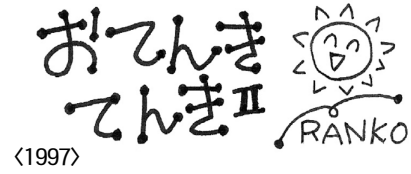
漁村「勝浦」です

横浜市 永友眞理子

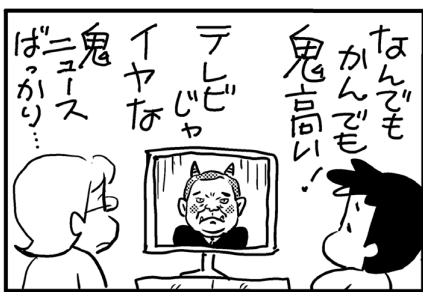
京都と言いたいけれど、観光客が多く、ゆきません。なので、二

原稿募集

☆テーマ：この春、はじめたいこと / 私のターニングポイント(転機) / おすすめの本
投稿や作品をお待ちしています。また、紙面への要望・意見などお寄せください。投稿は300字前後、短くする場合があります。住所・氏名・年齢・電話番号を、匿名希望の方はペンネームを書いてください。掲載した絵手紙は新婦人のSNSに掲載する場合があります。 あて先 〒112-0002東京都文京区小石川5-10-20 新婦人しんぶん編集部 ファクス03-5805-2372 Eメール s-press@shinfujin.gr.jp



(1997)



読者文芸

あなたも俳句

金子まさ江 選

銀河より遠きデブりのひとつまま 福島県 阿部 博子
「評」原発事故から13年半過ぎて核燃料デブりの試験的な取り出しが行われた。採取できたのは総量880トンのうちの0.7%。掲句の「銀河より遠き」に、廃炉の見通しのない原発への怒りがこみあげてくる。
オスプレイ来るな拳を空へ 東京都 松沢 真子
「評」墜落事故を繰り返している欠陥機オスプレイは、横田基地にも配備されている。安全面からだけでなく、騒音・振動による生活破壊も許せないこと。「来るな」と突きあげる拳に力を込めて。
老いたるも託す夢あり冬木の芽 東京都 丸山 浩子
「評」夢や希望は誰でも持っているが、高物価、年金切り下げの直撃を受けている高齢者にとって安心して暮らすための夢は切実。「冬木の芽」に希望を。
母の背冬日集めてバスを待つ 奈良県 大原 知子
「評」久しぶりの母親との外出か。バスを待つ間「母の背冬日集めて」の措辞に、慈愛に満ちた作者の思いが伝わる。
卒路にも今年の運勢新曆 東京都 岡崎たかね
「評」いくつになっても「今年の運勢」は気になるもの。新曆ではどうだったのか。
行く秋や慣れない老いのセルフレッズ 長野県 大山 京
群なして餌を食む鶴の一途かな 徳島県 加治 道子
句集編む仕上げの背貼り冬銀河 兵庫県 福山 朱美
閑けさや闇の底打つ時雨の夜 東京都 加藤 房江
寒菊の一叢明かし白い月 大阪府 山崎 万里

読者文芸

あなたも詩

瀬野とし 選

〔投稿規定〕作品は18字15行以内、未発表のものに限ります。住所、氏名を明記して、編集部「あなたも詩」係へ。詩は年4回(1、4、7、10月)掲載です。次回掲載(4月)の締め切りは3月30日。

直感

福岡県 河村 明子

初めて見た時この人だ！と直感が働いた

免許更新

神奈川県 高井久美子

写真撮影の職員さんに「あなたはきつと優しい人ね」と声をかけられてびっくりする。うっすらだとしても腹黒い。結構いやなやつなんじゃないかとそう危惧していたところだった。還暦過ぎても人として成りたらず

冬の火花

兵庫県 畝南

まぶしい夏の時代に火花を打ち上げ損ねたから冬の今になって打ち上げたい。誰でもいいわけじゃないけれど、もう待ちくたびれたから決めた。冬の火花を打ち上げる

初めて見た時この人だ！と直感が働いた
彼女の瞳には同じ痛みと重みを感じた
まだ 学生で
若いと言われる 私達
同じに 何かを悟っていた
現在 歳を重ねても
あの出会いは 色褪せることなく
やはり 私の直感はず
間違いではなかった

「たくさんの人を見てきたからわかるのよ」職員さんに重ねて言われると、ずうずうしくもまんざらでもない。肝心かなめの免許のほうは視力検査がぎりぎりだった。赤いフレームの眼鏡を新調しちゃうか

「評」河村さん。若い日に出会った人の瞳に、自分と同じ痛みと重みを直感したという。歳を重ねても、共感し努力あえるつながりが続いているのが素晴らしい。高井さん。自分を否定的に見がちな作者にかけられた、温かな言葉。言葉の励ましは力は大いですがね。「赤いフレームの眼鏡」に、弾む心がよく表れています。畝南さん。火花は夏だけのものではなく、他の季節にもそれぞれの味わいがある。冬の火花で「ドーン」とアピールを！
新年を迎えました。今日一日、何か心に止まったことはありますか？ それを見つめて、詩にして投稿してください。

〔作品募集〕ハガキで編集部「あなたも俳句」係までお寄せください。作品は未発表のものに限ります。